

史跡朱雀大路および平城京右京三条一坊一・二坪の発掘調査

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所 都城発掘調査部

調査地：奈良市二条大路南 4 丁目

調査期間：2015 年 12 月 16 日～（継続中）

調査面積：北区 南北 20m×東西 17.8m＝356 m²

南区 南北 20m×東西 20 m ＝400 m² 計 756 m²

現地見学会を開催します。

2016 年 3 月 5 日（土）11:00～15:00 ※小雨決行
説明は、11:30、13:00 の 2 回おこなう予定です。

概要

- 史跡朱雀大路の西側溝を北区・南区あわせて計約 40m にわたって検出しました。朱雀大路の規模は、東西両側溝の心心間で約 74m となることを改めて確認しました。
- 右京三条一坊一坪の南北のほぼ中心を通る東西道路（坪内道路）北側溝を検出しました。左京三条一坊一坪でもほぼ同位置で坪内東西道路北側溝を検出しています。今回検出できたのは北側溝ですが、朱雀大路西側溝との接続地点で橋脚を検出したことから、坪内道路が存在したものと推測できます。
- 三条条間北小路をなす南北両側溝を検出しました。その幅は側溝の心心間で約 5.5m あります。二坪を区画する施設は明確ではありませんが、二坪東北隅にあたる南区西南部で多量の瓦類が出土したことから、二坪の東辺と北辺は築地塀で区画されていたと推測できます。
- 右京三条一坊一坪の東辺と南辺には、遮蔽施設がない可能性が高いことが判明しました。朱雀門前は朱雀大路と左京・右京の三条一坊一坪を取り込んだ、東西約 260m、南北約 140m におよぶ広場的な機能をもつ空間であったとみられます。

1. 調査の経緯と目的

現在、国土交通省により今後進められる史跡朱雀大路跡等の整備に向けて、奈良文化財研究所ではこれにともなう発掘調査を実施しています。今回の調査は、朱雀門前における朱雀大路の規模、ならびに平城京右京三条一坊一坪・二坪やその間を通る三条条間北小路の実態を明らかにすることを目的として、昨年 12 月 16 日から南北 2 箇所調査区を設定して調査をおこなっています。

2. 周辺のこれまでの調査（図 1・2）

今回の調査地である平城京右京三条一坊一・二坪は、平城宮の正門である朱雀門の南西に位置する平城京の街区にあたります。発掘調査以前は民間の工場の敷地でした。

朱雀大路とその東西両側溝は、これまでも当研究所や奈良市教育委員会による過去の調査で確認しています。それによると、朱雀大路の東側溝は、左京三条一坊一・二坪付近では幅 3.8～4.5m、西側溝は、平城宮南面大垣付近では幅約 2.5m、右京三条一坊三・四坪付近では幅約 3.0m であることが判明しています。二条大路北側溝との合流点付近における朱雀大路の規模は、東西側溝の心心間で約 73.9m でした。

右京三条一坊一・二坪では、今年度、奈良県立橿原考古学研究所が今回の調査地の西方で発掘調査をおこない、三条条間北小路をなす南北両側溝を検出しました。その規模は、北側溝が幅約 1.3m、南側溝が幅約 1.0m で、側溝の心心間距離は約 6.5m、三条条間北小路の路面の幅は約 5.1m と発表されています（奈良県立橿原考古学研究所『平城京右京三条一坊一・二・七・八坪 発掘調査現地説明会資料』2015 年 12 月 20 日）。

このほか、今回の調査地と朱雀大路を挟んだ東対称位置にあたる左京三条一坊一・二坪とその周辺において、当研究所や奈良市教育委員会が発掘調査を実施しています。それによると、一坪の北辺・西辺・南辺には築地塀等の遮蔽施設がなく、広場として利用されてきた可能性が高いと指摘されています。また、一坪を南北に二分する東西方向の道路（坪内道路）も検出しています。さらに、

一坪と二坪を区切る三条条間北小路をなす南北両側溝を確認しており、一坪南辺には築地塀がなく、二坪には少なくとも西辺と北辺に築地塀が存在したことが判明しています。

3. 検出した遺構 (図3)

(1) 北区

朱雀大路西側溝、右京三条一坊一坪の坪内東西道路の北側溝、自然流路等を検出しました。一坪と朱雀大路との間には、遮蔽施設は見つかりませんでした。

朱雀大路西側溝 調査区の東部で、南北約20mにわたって検出しました。素掘りの溝ですが、北区の東岸(朱雀大路側)に杭列がならんでおり、シガラミで護岸した痕跡と考えられます。検出幅は3.4~5.4m、深さは約1mあります。溝底は南北で高低差があり、北から南に低くなります。

右京三条一坊一坪坪内東西道路 調査区西北部において、北側溝を約2.4mにわたって検出しました。素掘りの溝で、検出幅は約1.0m、深さは約0.1mあります。朱雀大路西側溝との接続部は、後世の土坑で壊されています。また、朱雀大路西側溝の東岸と西岸に、西側溝をわたる橋の橋脚とみられる柱列を検出しました。この橋脚の遺構については、その規模や構造を含め現在調査中です。

南側溝は後世に削平されたとみられ、検出できませんでしたが、北側溝と朱雀大路西側溝を渡る橋の存在から、この部分が右京三条一坊一坪を南北に二分する東西道路(坪内道路)と考えられます。

自然流路 北西から南東方向の流路を4条以上検出しました。平城京造営前と廃絶後のものがあり、流路が何度も流れを変えながら存続したと考えられます。

(2) 南区

朱雀大路西側溝と三条条間北小路の南北両側溝を検出しました。右京三条一坊二坪の北辺や東辺を区画する築地塀の痕跡は残存していませんが、西南部には瓦溜りがあり、本来は築地塀が存在したと想定されます。

朱雀大路西側溝 調査区東部で検出しました。南北約20mにわたって検出し、素掘りの溝で、検出幅は3.3~4.8m、深さは60cm以上あり、現在調査中です。北区と同様、溝底は北から南に低くなります。

三条条間北小路 東西方向の溝を2条検出し、この間が三条条間北小路にあたります。北側溝は、東西約9.5mにわたって検出しました。素掘りの溝で、検出幅は1.9~3.2m、深さは約30cmあります。南側溝は、東西約9.4mにわたって検出しました。やはり素掘りの溝で、検出幅は0.7~1.6m、深さは約20cmあります。いずれも溝底は西から東に低くなり、朱雀大路西側溝に接続します。また、南側溝へ南から接続する幅約0.5mの素掘りの南北溝も検出しました。

これらから、三条条間北小路の幅は、溝の心心間で約5.5mとなります。

瓦溜り 調査区西南隅で検出しました。東西約5.0m、南北約1.0mの範囲に多量の瓦類が出土しており、この付近に瓦葺きの構築物が存在したことをうかがわせます。

その他の遺構 三条条間北小路南側溝周辺で5基、調査区東北隅で4基の柱穴を検出しましたが、まとまりをもたず、これらの遺構の性格は不明です。

4. 出土した遺物

北区・南区とも奈良時代を中心とした須恵器・土師器等の土器のほか、軒瓦を含む瓦類が出土しました。とくに南区西南隅の瓦溜りからは、多量の瓦類が出土しています。このほか北区の朱雀大路西側溝からは、和同開珎(初鑄708年)や萬年通寶(初鑄760年)、銅釘、土馬が出土しました。

5. まとめ

朱雀大路の規模が判明 北区・南区あわせて、朱雀大路西側溝を計約40mにわたって検出しました。朱雀大路の規模は、朱雀大路を挟んで東対称位置にある、左京三条一坊一・二坪の調査による東側溝の成果と合わせると、側溝の心心間で約74mとなります。

これはこれまでの調査で判明している朱雀大路の規模と整合し、改めて平城京の中軸を縦貫するメインストリートであることを確認できました。また朱雀大路の東西両側溝は、平城京の他の条坊道路側溝を上まわる、堂々たる幅や深さを有していることが、今回の調査でも確認できました。

今回の調査では、これまでの調査よりも大きな面積で西側溝を検出したことにより、朱雀大路の規模や平城京の排水計画を検討するための十分な資料を得ることができました。

一坪の坪内道路を確認 右京三条一坊一坪の南北を二分する位置付近で東西溝を検出しました。この位置は、左京三条一坊一坪で検出した坪内道路北側溝の位置とほぼ一致します。またこの溝と朱雀大路西側溝の接続地点で、朱雀大路西側溝を渡る橋を検出しました。この2点から、右京三条一坊一坪にも坪内道路が存在したと推測できます。

坪内道路の幅については、北側溝と橋との位置関係などから、さらに検討が必要です。

三条条間北小路を検出 三条条間北小路の南北両側溝を確認しました。その規模は両側溝の心心間で約5.5mです。二坪を区画する築地塀は削平されたと考えられますが、周辺から出土した多量の瓦類の存在から、本来築地塀が存在したと推測できます。

これは左京三条一坊二坪の成果と同じであり、左京・右京とも二坪は、朱雀大路に面する東辺と、三条条間北小路に面する北辺に築地塀が築かれていた可能性が高いことが明らかになりました。

一坪には遮蔽施設がない 右京三条一坊一坪は、少なくとも東辺と南辺に遮蔽施設がない可能性の高いことが判明しました。左京三条一坊一坪にも遮蔽施設がないことが判明しており、朱雀門前は左京・右京の三条一坊一坪を取り込んだ東西約260m、南北約140mにおよぶ広場的な機能をもつ空間であったとみられます。このことは、朱雀門前の利用方法を考えるうえで重要な成果と言えるでしょう。

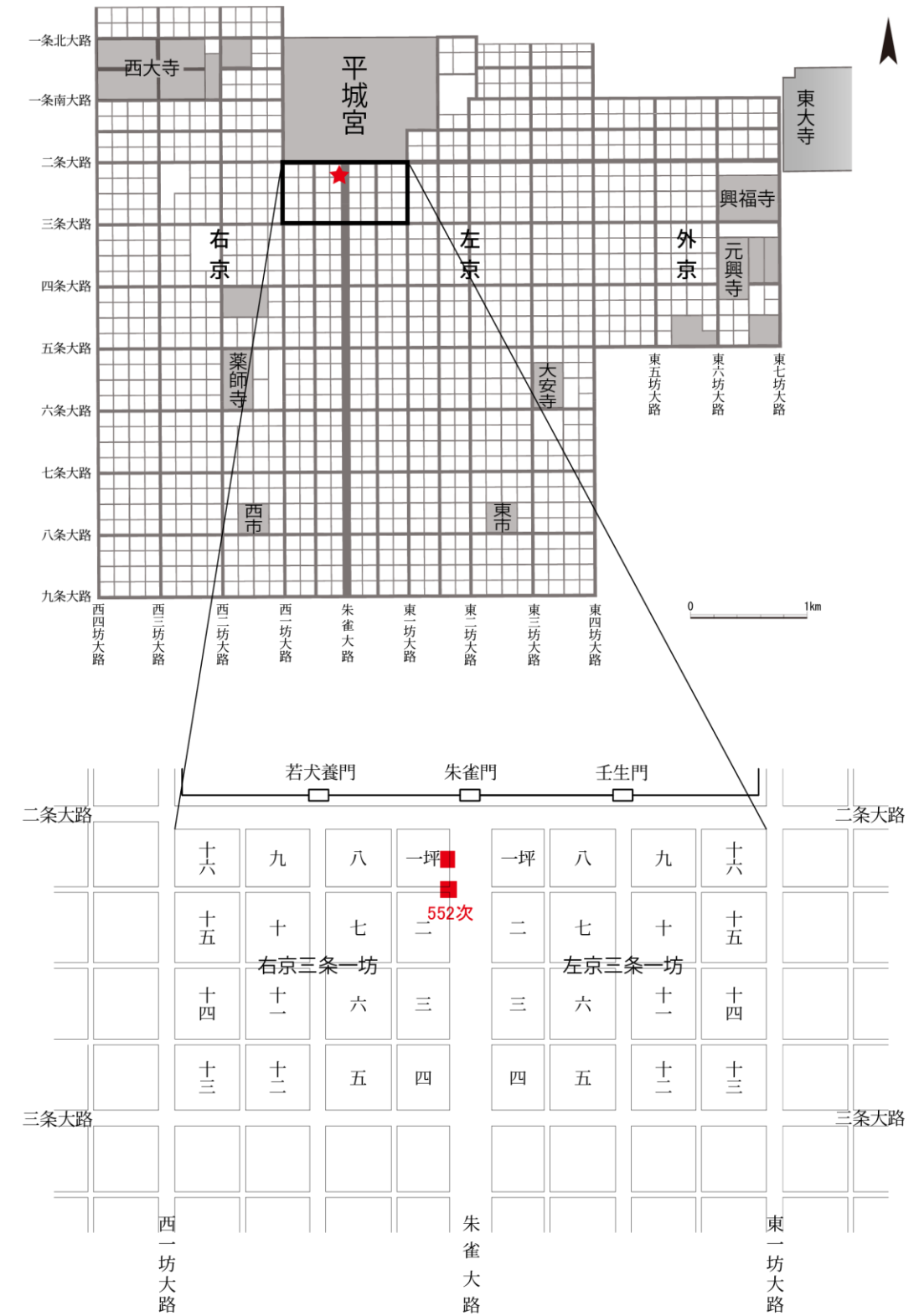


図1 調査地の位置と三条一坊の構造

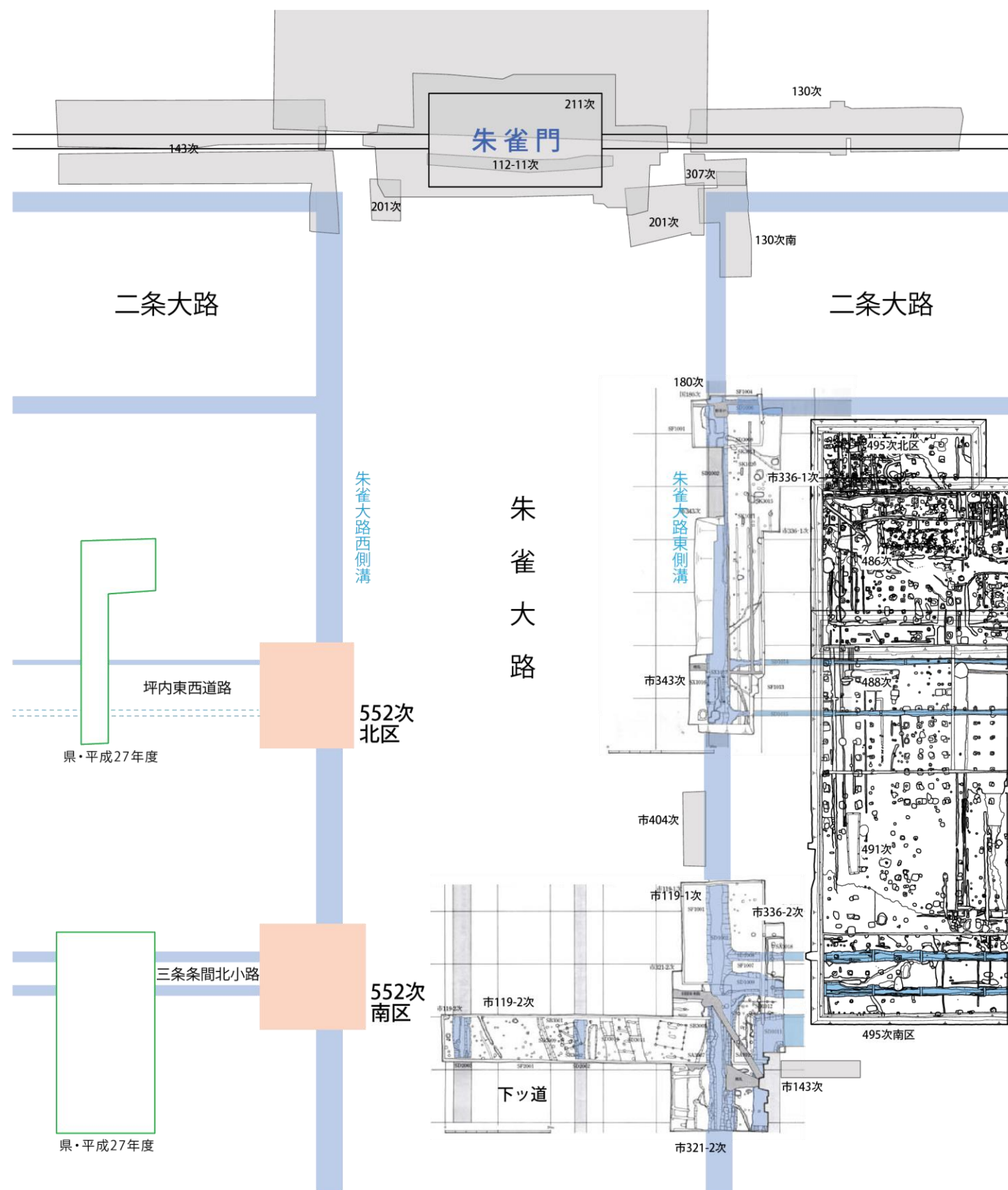


図2 第552次調査位置図

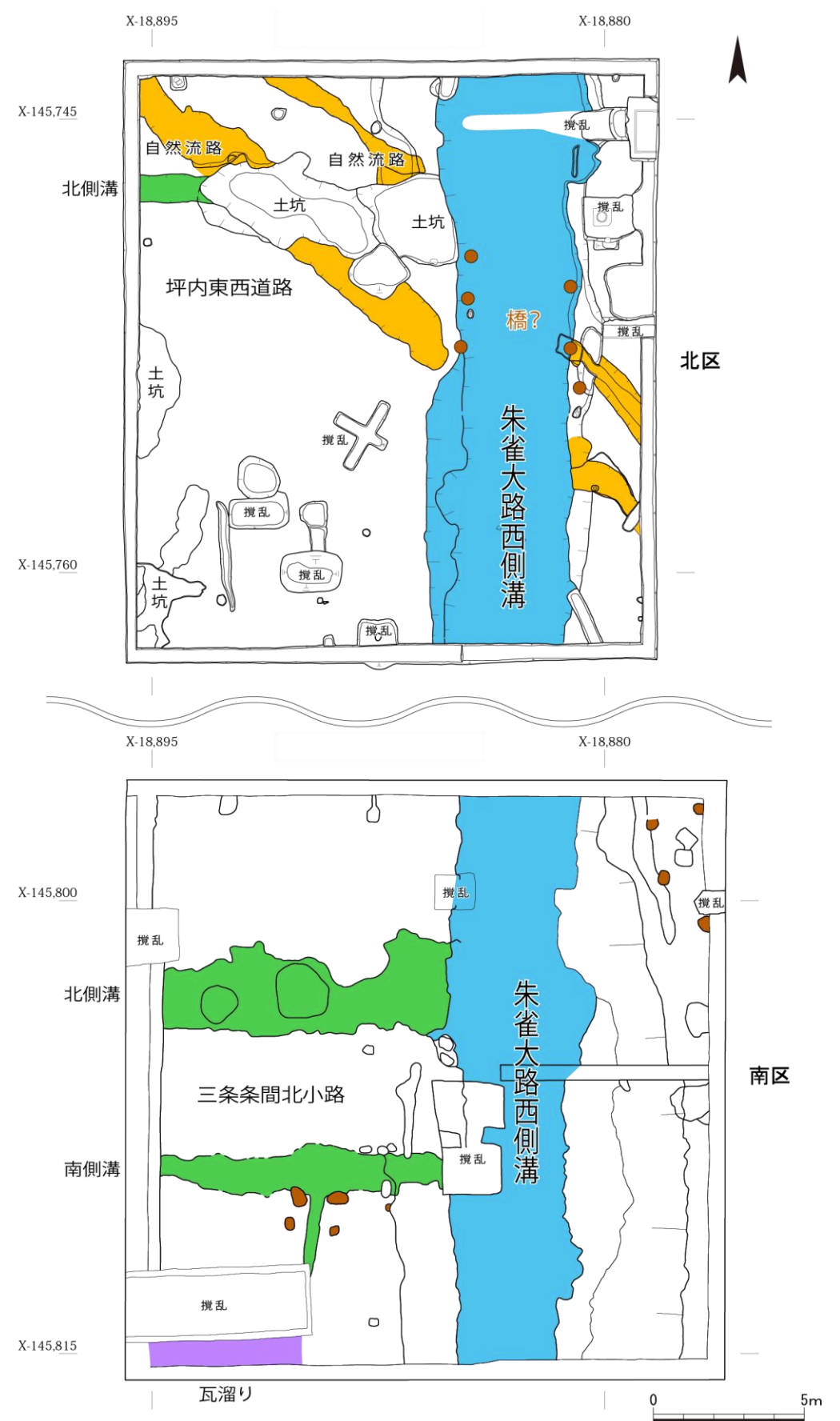


図3 第552次調査遺構図 1:200